

華北農村訪問調査報告(4)

— 2010年8月、山西省P県の農村 —

弁 納 才 一

はじめに

山西省の農村に関しては、山西大学中国社会史研究センターの全面的な協力を得て、これまですでに2007年12月と2008年12月の2回にわたって予備的な日中共同聞き取り調査を実施し、2009年12月にはP県D村においてやや本格的な日中共同聞き取り調査を実施してきた¹⁾。

今回は、2010年8月16日～29日の訪中期間のうち4日間、前回に引き続き、P県D村において本格的な日中共同農村聞き取り調査を行った。また、D村以外にも霍州市水利局や太原市近郊の晋祠鎮・赤橋村などを訪問し、さらに、山西大学中国社会史研究センターではD村の档案資料を閲覧し、北京の中国社会科学院経済研究所文献資料室では中国農村調査報告書(戦時期に刊行された日本語文献)に関する資料調査を行った。

本稿は、以上の2週間近くに及ぶ調査旅行のうち、P県D村における聞き取り調査²⁾の中の筆者が毛来靈の協力を得て聞き取り調査した部分をまとめたものである。

今回のD村調査の参加者は³⁾、日本側が三谷孝・内山雅生・弁納才一・祁建民・田中比呂志・小島泰雄の6人で、また、山西大学側が行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎・毛来靈・孫登洲・張永平及び3人の大学院生の11人で、総勢17人となった。なお、12月23日からは首藤明和が加わり、晋祠鎮と赤橋村の参観者は日本側だけでも7人となった。

なお、本稿でも前稿と同様に、プライバシーの保護に配慮して村民の実名

の表記は極力避けるようにした。また、同じ理由から個人の写真なども一切掲載しないことにした。

I WZX

聞き取り日時：2010年8月18日(火) 16：10～18：25

聞き取り場所：WZX宅

聞き手：弁納才一・毛来霊

通訳：毛来霊

家族

- ・父(WYF)は、私が12歳の時に死去した。その後は、父母の兄弟たちが生活の面などで助けてくれた。
- ・母(LCM, 都城の出身)は、私が30歳頃に67歳で死去した。
- ・妻(DXT)は、10年前に62歳で病死した。本村の北方にある小王村の出身だった。
- ・兄弟姉妹は自分を含めて全部で5人である。姉(WLR)は都城へ嫁ぎ、4～5年前に死去した。3人の妹(名前不明)のうち、1人は太原へ、また、他の2人は都城へ嫁いだが、一番下の妹はすでに死去した。弟(WJW)は、未婚のまま、1949年に病死した。
- ・子供は2男2女の計4人である。長女(WGQ, 1957年生まれ, 酉年, 53歳)は、都城へ嫁いだ。次女(WGN, 卯年, 46歳)と三女(WGD, 戌年, 40歳)は、N村へ嫁いだ。長男(WCG, 亥年, 51歳)は、陽泉炭鉱で働いており、その妻(CZL, 文水県の出身)は、陽泉の学校で教員をやっている。次男(WGL, 未年, 42歳)は、閻良庄の製鉄工場で働いているというが、当日の夕刻にWZX宅にやってきた(本村から閻良庄まで通勤しているのだろうか)。その妻(TLL, 親賢県出身)は本村で農業をやっている。

WZXの個人史⁴⁾

- ・1932年8月1日生まれ, 申年。

W家祠堂と「五伏」

- ・ 5世代(「五伏」)以内では通婚しない。
- ・ 本村に初めにやって来たW家の第1代目は3人兄弟だったために、本村の中に3つの祠堂を作った。WZXは長男の家系の22代目にあたり、頭道街にあったW家の祠堂を管理していた。旧暦12月29日～1月5日には祠堂に供物を供えたり、親戚が集まって食事をしたりしたというが、WZX自身はそのような経験がない。祖父の世代の親戚のうち、WH・HZなど3人は今も生きている。父の世代の親戚には60歳代のWYX(妻はHYY)やWYZ(WYXの弟)などがある。
- ・ 次男の家系のW家祠堂は二道街に、また、三男の家系のW家祠堂は三道街にあった。

土地改革前

- ・ 私の家は7人家族で、22畝の土地があった。土地は比較的多かったが、アルカリ地だったので、生産量は多くなく、生活に余裕はなかった。主に高粱・玉蜀黍を栽培し、冬小麦・緑豆・粟・棉花なども少し植えた。野菜は水不足(野菜栽培は非常に多くの水を必要とした)と栽培技術が未熟だったためにほとんど栽培せず、必要な野菜類は購入した。農産物を売ることはほとんどなく、基本的には自家消費した。高粱・玉蜀黍が主食(主に麺にして)で、小麦・緑豆は生産量も少なかったもので、正月などの時にしか食べることができなかった。棉花は布団や綿入れなどに用いる他に、母は紡糸・紡織ができたので、その土布を家族が着る服にした。妻は紡糸しかできなかった。
- ・ 小さい頃から主に農業をやっていたが、灌漑の作業や馬車(驢馬)で農産物を運ぶ仕事(馬車牽き)もした。毎年春に汾河から水を畑へ引き入れる仕事をした。P県一帯は汾河よりも地勢が低いので、河川の堤の一部を掘れば、畑に水を引くことができた。汾河からの取水の順番は、土地の高低差によって、まずW家庄が取水し、その次が本村で、さらにその次がL家庄となっていた。前の村で取水が終わると、その村の人が次の村へ知らせに来てくれた。解放以後は村民全員で用水路を掘った。汾河か

らP県一帯までの用水路は干渠と呼ばれ、人民公社が管理し、その干渠から本村までの用水路は支渠と呼ばれ、本村が管理した。

- ・ 驢馬で畑から家まで収穫した農産物を運ぶと、1回(1畝当たり)で1斗の高梁をもらうことができた。手間賃としてお金を受け取ることはなかった。
- ・ 1948年に解放軍が村にやって来て、1949年には土地改革が始まった。

互助組

- ・ 上からの呼びかけに応じて、みんなに互助組の組織化を呼びかけ、投票で組長になり、30戸余りが参加した。参加したのは親戚が多かった(お互いの畑も近くにあったのだろうか)。ただ、「変工」を行うだけだった(組長をやっている、あまり幹部という意識がなかった)。村には5つの互助組があった。

初級合作社

- ・ 1953年、22戸からなる初級社が成立し、私が社長となった。互助組に参加していた家のうち、合作社形式(「六四制」=収益の6割を労働力に応じて分配し、4割を土地所有分に応じて分配した)に同意した家が参加したので、互助組よりも参加した戸数が少なくなった。
- ・ 共産党員のDEFに参加してもらったので、DEF初級社と呼んでいた。上から初級社には共産党員が参加するように求められていたので、DEFに参加を呼びかけた。DEFはもともと解放軍にいて解放戦争後に村に帰ってきていたが、軍人で農業の経験もなかったため、村に戻ってきた後も農業には従事せず、また、互助組にも参加せず、共産党の末端組織として働いていた。よって、初級社に参加してからも、DEFは主に共産党政府とのパイプ役を務め、実務は社長のWZXが担当した。
- ・ 本村には3つの初級社があった。

農業生産合作社

- ・ 1954年、勝利社(120戸)・建設社(約60戸)・平和社(80戸余り)が成立し、

私が勝利社の社長となった。当時の書記はTKYだった。なお、私は1954年1月4日に入党した。

- ・1955年には3つの合作社が統合して紅旗社となり、TKYが社長、WZXが副社長となった。

その他

- ・幹部として活躍した1952年以降のことについてはよく覚えているが、それ以前のことは記憶が不鮮明になっていると言っていたが、1952年以降のことについてはすでに聞き取りが行われているので、今回の聞き取りでは家族や氏族あるいは土地改革前の状況について話を聞くことにした。このため、途中でやや退屈さと疲れを感じたようにも見えた。

II MRR

聞き取り日時：2010年8月19日 9：40～11：20

聞き取り場所：MRR宅

聞き手：弁納才一・毛来霊

通訳：毛来霊

家族

- ・祖父(MCS)は、村外から本村に移り住んだ1代目である。
- ・父(MLX)は、30年くらい前に80歳代で死去した。
- ・母(H姓、名前は不明)は、文水県の出身だった。
- ・兄弟姉妹は自分を含めて計4人である。妹(MYZ, 未年, 80歳)は、霍県のGMYに嫁いだ。弟(MEN, 戌年, 76～77歳?)の妻は、ZKL(祁県出身, 66歳, 酉年)である。一番下の弟(MSN, 丑年, 73～74歳?)の妻は、HTH(本村人, 戌年, 65歳)の父親はHFOで、その兄はHFTである。
- ・妻(YYL, 酉年生まれ)はN村(县城の西南, 本村より10km離れている)の出身で、78歳になった。

- ・ 子供は5人の息子がいる(娘がいるかは不明)。長男(MY, 寅年, 60歳)は退職後、一家が北京で暮らしており、妻はLSL(55歳, 申年, 北京の出身だったが、祁県の農村へ下放した後に、太谷県の紡績工場で働くようになった時、同じくそこで働いていたMYと知り合った)で、子供は一男一女で、息子は北京大学を卒業して働いている。次男(MGL, 未年, 56歳)は本村にあり、妻はBAZ(巳年, 46歳, 沁源出身)で、2人の息子と1人の娘がいる。三男(MGZ, 亥年, 51歳)の妻はWYX(51歳, 本村人。父はWGD)で、一家で陽泉へ移住し、子供は一男一女である。四男(MGM, 卯年)は、26歳の時、未婚のまま死去した。五男(MGC, 未年, 44歳)の妻はYGP(43歳, 申年, 新庄出身)で、2人の息子がいる。

MRRの個人史

- ・ 1937年2月17日生まれ、辰年、83歳。
- ・ 貧しかったので、小学校には何日か通っただけだった。解放前は、家には3～4畝の土地しかなかった。
- ・ 抗日戦争後、15歳の時から4～5年、土地改革の時まで、WJB(数十畝の土地を所有する中農)の畑で長工をやった。三食(高粱・玉蜀黍の窩窩頭をたくさん食べた)付きの住み込みで働き、1年間に4担(600斤)の高粱・玉蜀黍をもらった。王拳兵の家では高粱・玉蜀黍と少量の小麦を生産し、高粱・玉蜀黍を売っていた。
- ・ 1949年(20歳頃)、土地改革があり、1人当たり2～3畝、一家で計7畝の土地を分配されたが、食糧は足りなかった。
- ・ 1952年、村には互助組が組織されたが、私の家は互助組には参加しなかった。
- ・ 1984年まで生産小隊長を務めた。第7小隊長を25年やった後、第4小隊長を5年やった。第7小隊は成績優良だったが、第4小隊は成績不良だったので、第4小隊長だったGJC(77歳)の後を継いで第4小隊長になり、立て直しをした。第7小隊長はTWY・LGLが後を継いだ。最後に再び第7小隊にもどった。

初級社

- ・1955年、初級社(和平社)に入社。社長はGZL。

大躍進

- ・1960～62年の食糧困難の時期は、食糧(穀物)を畑から盗む者が多くいた。盗んだ者は殴られたり、吊されたりした。村では300人くらいの餓死者が出た。河南省や山西省内の隣接する県から多くの難民(乞食)がやってきた。

三幹会と四幹会

- ・三幹会は県政府・人民公社・生産大隊の3級幹部のみが参加し、生産小隊長は参加しなかったが、県政府で開催された四幹会には参加したことがある。
- ・W家庄人民公社で開催された三幹会にはよく参加した。毎年、3～5日間あるいは1週間開催された。

その他

- ・毛沢東時代(人民公社の時期)は良かったという。
- ・かつて幹部として仕事をしたのに、老後は村からの年金などの手当もないと不満をもらしていた。
- ・最後に、写真を撮ってすぐにプリントアウトしてわたしてあげると、非常に喜んで、自慢の「P県第十屆人民代表大会代表視察証」を出してきて見せてくれた。

III GJC・WZ

GJC宅でG氏に話を聞いている途中で、よくあることだが、不意にWZが話を聞いている部屋までやって来たので、ついでにWZにも話を聞くことにした。ただし、WZついてはすでに常利兵氏がやや詳細な聞き取りを行っている⁵⁾。

聞き取り日時：2010年8月19日 15：35～17：45

聞き取り場所：GJC宅

聞き手：弁納才一・毛来霊

通訳：毛来霊

GJCの家族

- ・父(GZR)は4人兄弟の長男で、15～16歳の時に、共産党と関係があるということで、国民党の人間に集団で殴り殺された。実は父の弟(次男)が共産党員だったので、父は間違っただけで殺されたのに、父の死後、父の兄弟たちは誰も助けてくれなかった。
- ・母(M姓、名前は不明)は劉窪庄の出身で、私がまだ子供の頃に餓死した。貧しく、食べるものがなかったので、子供に食べさせるために自分は食べなかった。
- ・2人兄弟だったが、兄(GJJ)は国民党に徴兵されて行方知れずになった。それからはずっと1人ぼっちだった。
- ・妻(DQL, X村の出身、1930年生まれ)はH村に嫁いだが、子供が生まれなかったので、離婚していた。その時、GJCが羊の放牧の仕事でその家に行ったことがあったので、知り合った。11年前に死去した。
- ・実子はいない。H村で一男一女を養子にもらった(貧しい家で子供が多くて育てられなかったから)。娘のGLE(申年、36歳)は嫁いだが、息子のGLM(寅年、30歳)は高校を卒業した後に建築の仕事をしているが(現在、隣村で家を建てている)、貧しいためにまだ結婚していない(結婚するには多くの金が必要だから)。

GJCの個人史

- ・戌年生まれ、77歳(1933年生まれ?)。
- ・私の家には3畝の土地しかなかった。主に高粱を栽培した。
- ・私の家は貧しかったので、学校へ行って勉強したことはない。
- ・15歳頃から沁源で羊の放牧の仕事始めた(多くの羊を飼育している家の羊を放牧させた)。報酬は食事を提供されたただけだったが、食べるのに

困ることはなかった。ただし、貧しかったので、靴を買うことができず、裸足で働いた。

- ・土地改革以降もあちこちで羊飼いの仕事を続けていたので、互助組には参加しなかった。
- ・初級社には参加し、馬車で石炭や穀物を運ぶ(馬車牽き)仕事をした。石炭の運搬は発電溝というところから本村の各家庭まで往復で3日間もかかった。
- ・人民公社時代に第4小隊長を1年間務めたが(投票によって選ばれた。階級が良かった(貧困階級の出身だった)からであろう)、あまりうまく務めることができなかった。第4小隊のメンバーは覚えていないが、副隊長はMRRだったかもしれない(実際は、MRRはGJCに代わって第4小隊長になった。上記のMRRの聞き取りを参照)。人民公社時代は、牛を飼育したり、馬車で運搬作業をしたりした。
- ・1960~62年にはW家荘で羊飼いをしていて報酬として食事を提供されていたので、餓えたことはなかったし、また、村にはいなかったの、村で餓死者が出ていたことなどは全く知らなかった。「炒麵」(高粱・玉蜀黍の粉を炒めたもので、食べる時には水を加える)を食べた。
- ・1949年以前の暮らしが最もつらく、苦しかった。最近、暮らしは良くなってきた。
- ・新しい家がないと息子が結婚できないと思って、3年前に借金して新たに家を建てたが、現在、借金が4,000元余りも残っている。息子と同じ仕事をしている友人が家を建てるのを手伝ってくれた(お互いの家を建てるのを助け合った)。
- ・上記の家族の話をした時は、昔のことを思い出して泣きながら話した。

WZの家族

- ・先祖は元末明初に洪洞県大槐樹のあるところからやってきた。祖父はWCBである。
- ・父(WQR)はアヘン中毒になって土地を全て売ってしまった。その後、調味料などを売っていた。母(JJE)はX村の出身だった。

- ・ 6人兄弟，3人姉妹の三男である。長男(WZ)は本村にいる。次男(WC)はアヘンで死亡した(?)。四男(W?)はH家へ売られた。五男(W?)は本村におり，妹を売った金で中学校まで行った。六男(W?)はH家へ売られた。3人の妹はみな童養媳となった。
- ・ 妻(RGY)は1930年生まれで，WZと同年齢である。33歳の時に離婚して再婚し，70歳で死去した。
- ・ 子供は2男2女である。

日本軍

- ・ 7歳の時(1937年?)，日本軍が村にやって来た。父に頼まれて県城内へ調味料を買いに行ったことがある(子供は県城内に入りやすかった)。村で14歳の娘が日本兵に強姦されそうになった。日本兵は村にやって来て食糧を調べて奪っていった。

WZの個人史

- ・ 1930年9月7日生まれ，午年，80歳。
- ・ 2年間，小学校で学んだ(学費は一族の王瑤が出してくれた)。
- ・ 土地改革では17畝の土地を分配された。互助組には13戸が参加していた。

IV WBG・GYG

聞き取り日時：2010年8月21日 16:00～17:45

聞き取り場所：WBG宅

聞き手：弁納才一・毛来霊

通訳：毛来霊

WBGの個人史

- ・ 1932年生まれ，申年。
- ・ 7～8歳頃からD小学(老爺廟)で学び始め，その後，戦争などのために何度か中断し，解放後にP県第一完全小学で学んだ(6年生分を1年間)。

- ・ 19歳(1951年), 祁県の中学校に入学し, 宿舍で暮らした。父親は教育を重視していた。成績はよかった。21歳(1953年)で卒業し, 大学への進学を希望していたが, 父が死去していた(継母が残されていた)ので, 進学をあきらめた。
- ・ 以上のような家庭事情から, 1953年, 山西省工業庁(太原市国師街の西側)で働き始めた。ただし, 最初の約1年間は研修期間として同庁の工業民間建築専門技術養成班で学んだ(山西省共産党青年団学校で受験して合格した。この試験では800人以上が受験し, 合格したのはわずか10人にすぎなかった)。その後, 朔州の亜麻原料廠の建設にかかわったが, その工場は操業するまでに至らなかった。
- ・ 1957年(25歳), 太原で結婚した。
- ・ 1958年から4年間, 土法製鉄運動の時, 臨汾鋼鉄廠を建設しに行き, 1962年に太原へもどり, 鋤山機械製造廠(太原市大北門)で10年間働いた。
- ・ 1972年, 山西省P煤炭電機車廠へ転勤して10年間働いた。1973年からは本村にもどり, 自転車で同上の職場まで通勤した。1983年, 定年退職した。

土地改革前の状況

- ・ 抗日戦争中は, 县城から本村へ日本兵がよく来ていた。
- ・ 私の家にはもともと30~40畝の土地があつて, 主に高粱・玉蜀黍を栽培し, 小麦・粟も少し栽培し, 食糧は十分で, 少しは売ったりしていた。
- ・ 騾馬や驢馬を1頭飼っていた。この驢馬に近隣の家のために石臼で穀物を碾かせて金や高粱・小麦・玉蜀黍をもらっていた。
- ・ 土地改革の前に貧しい友人に少し土地をあげたので, 土地は少し少なくなっていた。そのため, 土地改革の時は私の家は中農に区分された。土地改革では7人家族で約28畝の土地を与えられた。また, 私の家の驢馬と別の家(例えば, DJJ, 現在90歳)の驢馬の2頭でお互いに耕作を行った(2頭の驢馬でスキを牽かせた)。

GYの個人史

- ・ 1939年生まれ。

- ・ T家堡(本村から約2 km離れている)の出身で、私の実家は「貧農」だった。
- ・ 15歳(1954年頃)で小学校を卒業し、太原市南寒の西山鋤務局の商店で働き始めた。兄が太原の鋼鉄廠(製鉄工場)で働いていたので、兄の戸籍に入り、都市戸籍となった。兄は、1960年に食糧不足のためにT家堡にもどされた。
- ・ 18歳(1957年)でWBGと結婚し、1962年には2人の子供をつれて夫の実家の本村にもどった(食糧不足対策として年から農村へ移住させる政策に従った)。「経済戸」(農民戸籍ではない)だったで、自留地はなく、1人年間380斤の「口糧」(高粱・玉蜀黍など)を第7小隊の倉庫(三道街のW家祠堂の中)で購入した。
- ・ 本村の廟会は旧暦4月5日に開催されていた。

V WYX・HYY

聞き取り日時：2010年8月22日 9：40～10：50, 15：30～17：50

聞き取り場所：WYX宅(廟東街校園西巷)

聞き手：弁納才一・毛来靈

通訳：毛来靈

WYXの家族

- ・ 祖父はWCRで、祖母(LDJ)は本村から7～8里離れている東劉の出身だった。
- ・ 父はWZ(寅年),母(ZBM)は本村から約10km余り離れているZ家堡の出身だった。
- ・ 一人っ子(1941年12月9日生まれ,巳年)なので、兄弟姉妹はいない。
- ・ 子供は3男2女である。長男(WCC,47歳,卯年)は、太原の中国聯通(太原市近くの古交市の中国聯通から転勤)で働いており、妻のWCX(45歳,巳年,小王村の出身)は古交市林業局に勤務している。次男(WCJ,43歳,未年)は、本村で農業をし、たまに付近に出稼ぎに行き、妻はSRP(43歳,X村の出身)である。三男(WCW,4歳,巳年)は、太原へ出稼ぎに行つて

おり、妻はLYH(34歳、W家庄の出身)である。長女(WCL, 45歳)は、兄のCCの紹介で古交市へ嫁ぎ、専業主婦となっており、夫は古交市の中国聯通に勤務している。次女(WCH, 41歳)は、N村へ嫁いだ。農業に従事している。

WYXの個人史

- ・1941年12月9日生まれ、巳年。
- ・私の家には十数畝の土地があり、中農だったので、土地改革で土地所有に変化はなかった。玉蜀黍の栽培が最も多く、高粱の栽培は少なかった。
- ・1952年に本村の初級小学校に入学し、1956年に本村の高級小学校に入学した。
- ・1958年にW家庄の中学校に入学し、1961年に卒業した。
- ・1962年から本村で働き始めた(第6小隊=二道街の東部と廟東街に居住する家が参加)。粟・豆類などを栽培したが、小麦と高粱は生産が良好だったものの、棉花はそれまで栽培したこともなく棉作技術が未熟だったので生産はよくなかった。
- ・1964~65年頃、3日間、大寨に見学に行つて農業を学んだが(実際の見学などは1日だけ)、当地の幹部などには会えなかった。列車でP県から陽泉まで行き、その後はバスに乗って行った。生産大隊からは30人余りが出かけ、第6小隊からは小隊長(ZTS, 故人)・副小隊長(WDF)・政治隊長・婦女聯隊長(YYQ)・民兵隊長(WB)・会計(WYF)・保管(DZX)・貧農協会組長(WCL)の中から数名派遣された(保管と貧農協会組長が小隊のカギをそれぞれ1つずつ持っていた。2つのカギがそろわないとカギを開けることができなかつた)。旅費・食費などは自弁で、後で立替金を精算した。村に帰つてから、「講解員」(ガイド)から聞いた話を会議を開いて社員に説明した。労働態度・労働の質・労働量を社員全員で評価して政治隊長がチェックして労働点数を決定した(「大寨評工」)。1965年に入党した。
- ・1965~71年、党支部から任命されて第6小隊の政治隊長を務めた。政治隊長は思想工作が主任務で、問題が発生した時に仲介役を務めた。当時

の第6小隊長はZTS(故人)だった。

- ・1972～2005年、生産大隊副書記を務めた(書記はWXRだったが³、1985年にWXRが書記を辞めたので、1年間弱、代理書記を務め、その後の書記は党員の選挙によってWHが選ばれた。WHはもと人民公社の水利管理委員だった)。副書記は「内務」を担当した。内務は本村出身者の経歴・人脈・友人関係・政治思想などを調査するために村の内外に出かけること(「内務外調」。このために外調幹部とも呼ばれていた)と生産計画・管理制度の策定・実施である。大隊書記の仕事は公糧の供出・「経済戸」と村民からの集金(村民からの抵抗が強く、最も厄介な仕事)・掲げた目標を実現することなどだった。

HYYの個人史

- ・1945年11月4日生まれ、申年、67歳。
- ・隣村のH村の出身である。H村は大部分がH姓である。私の祖母と母は紡糸・紡織ができた。祖母から紡糸を学んだ。1960年にはH村でも餓死者が出た。
- ・1962年(19歳)、本村へ嫁いで来てから、畑で働いた。第6小隊は70人くらいが男性で、女性の人数は変動が大きく20～50人だった。女性は棉作を担当した。

その他

- ・結婚してから、春節などの時に妻の実家のH家へビスケット・果物・酒などを持って挨拶に行った。子供が生まれると、実家のH家の母親が本村の家にしばらく住み込んで赤ん坊の面倒を見てくれた。
- ・1953～55年頃、本村とH村は合併してD郷と呼ばれていた。
- ・女性は、18～50歳が「全労力」、50～55歳と16～17歳が「半労力」とされ、男性は、18～55歳が「全労力」、55歳以上と17歳以下が「半労力」とされていた。
- ・午前中の聞き取りの最中に、友人からW家庄の廟会へ行こうという誘いの電話がかかってきた(我々は、その日の昼にW家庄の廟会を参観した。

通りには露店が立ち並び、広場では晋劇が上演されていた。)

おわりに

今回の調査では、現在の同村の幹部はもとより、MWB氏をはじめとして、数人の老人が村を案内したり、聞き取り対象者を紹介してくれるなど、多くの方々から協力をいただいた。

これまでの順調な調査によってかなりの量の情報を蓄積することができ、同村の概況をほぼ把握することができた。

しかも、今回の調査に先立って2010年7月に、山西大学中国社会史研究センターの教員と大学院生がかなり詳細な聞き取り調査を実施していた⁶⁾。

また、2010年秋には、山西大学中国社会史研究中センターの大学院生がD村での聞き取り調査を実施したと聞いている。

以上のような状況を踏まえて、次回の調査(2010年12月下旬に実施予定)では、山西大学側はテーマを絞った聞き取りを実施する予定であり、一方の日本側は今少し同村の概略的全貌を把握するために、より多くの村民に聞き取り調査を行いたいと考えている。

注

- 1) これまでの調査内容をまとめたものとして、拙稿「華北農村訪問調査報告(1)－2007年12月、山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第1号、2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告(2)－2008年12月、山西省太原市・霍州市・平遙県農村」(北陸史学会『北陸史学』第57号、2010年7月)・同「華北農村訪問調査報告(3)－2009年12月、山西省P県の農村」(金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号、2011年2月)、祁建民「中国内陸農村訪問調査報告(1)」(長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第11号、2010年12月)、田中比呂志「華北農村訪問調査報告(1)－2009年12月、山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要(人文社会学系II)』62集、2011年1月)がある。また、山西大学側の調査内容をまとめたものとしては、行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎・張永平(弁納才一訳)「山西省農村調査報告(1)－2009年12月、P県の農村」(金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号、2011年2月)を参照されたい。

- 2) 本稿で扱った以外の部分については、後に農村聞き取り調査を実施した祁建民・田中比呂志・小島泰雄が各自の聞き取り内容をまとめることになっている。
- 3) 日本側の参加者の所属は以下のとおりである。三谷孝(一橋大学大学院社会学研究科名誉教授), 内山雅生(宇都宮大学国際学部教授), 弁納才一(金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授), 祁建民(長崎県立大学国際情報学部教授), 田中比呂志(東京学芸大学教育学部教授), 小島泰雄(関西外国語大学附置研究所教授), 首藤明和(兵庫教育大学学校教育研究科准教授)。
- 4) WZXに関しては、すでに山西大学側が複数回聞き取りを行っている。前掲, 行龍・郝平・常利兵・馬維強・李嘎・張永平(弁納才一訳)「山西省農村調査報告(1)―2009年12月, P県の農村」(金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号, 2011年2月)を参照されたい。
- 5) 同上。常利兵氏によれば, WZ(漢字表記)は本人の名前ではなく, その子供の名前であるという。
- 6) 行龍・郝平など(弁納才一訳)「山西省農村調査報告(2)―2010年7月, P県の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第2号, 2011年3月)。